



# んだじゅ通信

—Vol. 15—

## Contents

1. 新年度のあいさつ
2. 外来診療のお知らせ
3. 新任医師の紹介
4. 地域の医療機関
5. シリーズ栄養レシピ

山形県立新庄病院 地域医療部

〒996-0025 新庄市若葉町 12 番 55 号

TEL 0233-22-5525(代表)

FAX 0233-28-7277(直通)

平成 30 年 5 月発行



## 1. 新年度のあいさつ 新庄病院長 八戸 茂美

新庄春の風物詩カド焼まつりも終わり、最上は新緑の季節を迎えました。皆さまには日頃より病院運営におきましては多大なご支援を賜り深謝いたします。

このたびは、長きにわたり地域医療に貢献してくれた廣野撰先生はじめ 11 名の医師が退職、転出されましたが、新たに 12 名の医師を迎えることができました。中でも麻酔科が念願の 2 名体制となり、また 2 名の初期研修医の採用が叶いました。



これまで最上の医師確保に奔走された関係者各位のご尽力に感謝いたします。これを契機に、より一層の最上地域の医療人材育成と環境改善に努めていくつもりです。

昨年度は、当院の大きな課題であった「病院改築整備基本計画の策定」と「病院機能評価更新」を職員皆が力を合わせ達成することができました。また、「経営の健全化」に関しても、患者数は低下したものの診療単価の増加により入院外来医業収益は増加し、経常収支の黒字化が見込まれます。



さて、診療・介護報酬同時改定に始まる今年度は、薬価や診療材料費のマイナス改定の影響等で病院運営は大変きびしいものになると予想されます。一方、改定の基本方針に「地域包括ケアシステムの構築」と掲げられているように、「地域」という概念がさらに重要視され、訪問看護ステーションのさらなる機能強化や在宅医療の推進が求められることとなります。当院も紹介、逆紹介、退院支援を通して今後とも皆さまにお世話になることと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

今年度も「質の高い医療の提供」、「人材の確保と育成」、「医療連携・機能分担の推進」、「経営の改善」の4つの柱を運営方針として施策を進めてまいります。

新たな取り組みとして、次期総合医療情報システムの更新に向けた事前準備と病院改築整備基本設計へ向けた院内検討会が始まります。また、乳房X線撮影装置の更新等の医療機器の整備を拡充させ質の高い医療の提供に努める一方、職員の資質及びモチベーション向上のための院内表彰制度の創設を検討しております。また、院内研修会の充実強化のために、月1回開催中の救急災害勉強会の参加対象を院内職員、消防本部職員に加え地域医療機関まで拡げますので、皆さまどうぞ気軽にご参加ください。

医療現場にもいよいよ「働き方改革」の波が広がりつつあります。職員の健全な職場環境を維持しながらも、「最上地域唯一の基幹病院として地域住民に安全、安心、信頼の医療を提供します」という当院のミッションの遂行が私たちの本分であることを銘記し、これらの施策を実践していくつもりです。職員総参加の仕組みづくりを心がけることが、ひいてはさらに地域に開かれた病院づくりに繋がることだと思っております。

最近、自治医大出身の若い先生方と話す機会が増えました。「あ、私たち、なんでも診ますのでどうぞ紹介してください」という彼らの会話が、ここ数年「新専門医制度」開始に関わる議論の中にばかりいたせいか、やけに新鮮で頼もしく感じました。どうぞ皆さま、これからも高い志で一致団結して最上の医療を支えていきましょう。

## 2. 外来診療のお知らせ

当院では、下記の診療科は『原則予約制』となっております。予約されないうで来院した場合、当日中に診察できないことがございますので、必ず事前に予約申込みいただきますようお願いいたします。

対象診療科	外科、整形外科、皮膚科、眼科
予約方法	診療を希望する科の外来に電話で直接お申込みください。 (直接来院されての予約も可)
予約受付時間	月～金曜日の午後2時から4時までに お申し込みください。 (電話 0233-22-5525)








山形県立新庄病院 外来診療医師 一覧表

平成30年4月1日現在

Table with columns for Clinic (診療科), Treatment Time (診療時間等), Day (月, 火, 水, 木, 金), and Doctor Name. Rows include Internal Medicine (内科), Pediatrics (小児科), Surgery (外科), etc.



### 3. 新任医師の紹介

	<p><b>検査部副部長兼人工透析室長 宮本 卓也 【診療科】内科（循環器）</b> 【資格】日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認 JMECC インストラクター、日本循環器学会 FJCS、日本循環器学会専門医、日本循環器学会認定 ACLS コーディネーター、日本心血管インターベンション治療学会認定医 皆さんはじめまして。山形大学第一内科（循環器内科）から参りました。出身校は福島の会津高校です。今回初めて新庄病院にお世話になります。単身赴任で、専門診療から地域医療と、生活も勤務も一変し、勉強の毎日です。赴任当時ガチガチに緊張していましたが、少し緊張も和らいできました。程よい緊張感を維持し、地域医療に微力ながら貢献できるようにがんばります。よろしくお願ひします。</p>
	<p><b>医師 梅原 松樹 【診療科】内科 【資格】内科認定医</b> 4月より公立置賜総合病院より異動して参りました、消化器内科の梅原松樹と申します。最上地区の皆様が健康に生活できるよう尽力してまいりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>
	<p><b>医師 高橋 鴻志 【診療科】内科</b> 山形大学附属病院から参りました内科の高橋鴻志と申します。最上地域への赴任は初めてですので楽しくやっつていこうと思ひます。皆さんどうぞよろしくお願ひいたします。</p>
	<p><b>医師 遊佐 優 【診療科】形成外科</b> 4月より赴任しました遊佐です。仙台在住の頃から山形には遊びにきていましたが、住むのは初めてです。新庄病院のスタッフの方々のおかげで、とても働きやすい環境にあり感謝しています。少しでも地域の医療に貢献したいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。</p>
	<p><b>医師 針生 光博 【診療科】整形外科</b> 【資格】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、日本リウマチ学会専門医 宮城県古川市(現大崎市)出身で、学生時代は柔道一筋の生活を送つておりました。4月に日本海病院から山形県立新庄病院に異動してまいりましたが、電子カルテなどまだまだ慣れない事ばかりで、関係各位の皆様には御迷惑をおかけしている次第です。1日も早くシステムに慣れ、最上地区の整形外科医療の充実、発展を目指し頑張つてまいりたいと思つておりましたので、よろしくお願ひいたします。</p>





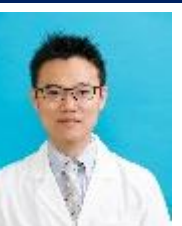
**医師 和根崎 禎大** 【診療科】整形外科 【資格】日本整形外科学会専門医  
日本海総合病院より参りました。整形外科の中でも、Specialityは膝分野、subspecialityとしては足関節、スポーツ整形、外傷を中心に活動しております。5人の医師で構成される、パスラボ山形ワイヴンズのチームドクターの一員をさせて頂いており、私も小学校から現在までバスケ一筋にやっております。出身は山形県です。よろしくお願いいたします。



**医師 川合 唯** 【診療科】耳鼻咽喉科  
山形大学医学部附属病院より参りました。前回は2016年10月～2017年3月の半年間新庄でお世話になりましたが、1年で戻ってきました。  
最上地域の耳鼻咽喉科診療に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



**医師 荒木 直人** 【診療科】耳鼻咽喉科  
4月より県立新庄病院耳鼻咽喉科に赴任となりました、荒木直人と申します。  
昨年度は山形大学病院にて勤務しておりました。咽頭・音声疾患を専門分野としております。県内出身ですが、最上の勤務は初めてとなります。地域に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



**医師 齊藤 晋太郎** 【診療科】放射線科  
【資格】日本放射線学会専門医、検診マンモグラフィー読影認定医、PET核医学認定医  
新庄病院には2年ぶりになります。地域医療に貢献できるよう日々精進して参ります。よろしくお願いいたします。



**医師 須田 拓郎** 【診療科】麻酔科  
【資格】日本麻酔科学会専門医、日本周術期食道エコー認定医  
この度山形県立中央病院から異動してきました。これまで手術麻酔全般を主としてきましたが、特に心臓血管麻酔と末梢神経ブロック中心とした区域麻酔を専門として協力して手術室の運営を中心に、最上地域の医療に貢献していきたいと考えております。  
よろしくお願いいたします。



**初期研修医 鈴木 幸大**  
研修医の鈴木幸大と申します。山形大学医学部卒業で、出身地は西村山郡の朝日町です。ずっと村山地域に住んでいて、最上地域に来たのは初めてです。いまは内科で研修をさせて頂いています。まだまだわからないことも多いですが、精一杯頑張っておりますので、よろしくお願いいたします。



**初期研修医 山口 慧**  
はじめまして、4月より初期研修医となりました山口慧と申します。米沢市の生まれで、栃木県の自治医科大学を卒業しました。初めての新庄市、そして初めての医師としての生活で、まだまだ不慣れなことも多いですが、少しでも最上地域の医療に貢献できるように精一杯頑張りたいと思っております。  
どうぞよろしくお願いいたします。



## 4. 地域の医療機関

香音クリニック リウマチ科・内科・形成外科 院長 今井 香織

### 専門性を生かしつつ、地域に根ざしたクリニックを目指して

2013年11月に故郷で開業して早くも4年半が過ぎようとしています。故郷とはいえ、出身大学や研鑽を積んだ病院からは遠く離れ20数年ぶりに戻っての思い切った開業でしたが、幸い患者さんは徐々に増え、リウマチ患者さんに限って言えば、350人を超える方が通院されるようになりました。リウマチ専門医というと山形県ではまだまだ少数で馴染みがないかもしれませんが、リウマチ患者さんは約100人に1人と、決して少なくありません。最上地域ではおおむね650人前後の患者さんがいることになります。一人でも多くの患者さんが、希望を持って明日からの生活を送れるように、丁寧な診察、スタッフ間のチームワーク、近隣医療機関との顔の見える連携を大切にしています。

#### ☆リウマチ診療の取り組み

リウマチの診断、治療はここ十数年で画期的に進歩しています。早期発見、治療によって“寛解”が可能であり、治療開始のタイミングがとても重要です。

- ・リウマチ反応がでない
- ・血液検査で異常がない
- ・レントゲンをとったが異常がない
- ・1か所の関節しか痛くない



これはリウマチではないと思う、リウマチではないと言われることが多い理由です。しかし、リウマチ反応が陰性でも、炎症反応がでなくても、レントゲンで異常がなくても（初期のリウマチはレントゲンではわかりません）、左右対称の関節炎ではなくても、リウマチの可能性があります。当院では、関節リウマチと間違えやすい関節炎をきたす疾患の除外や、関節超音波検査などを用いた早期診断に取り組んでいます。特に関節超音波検査は、痛みもなく、患者さんとリアルタイムに関節内の状況を共有でき、診断や経過観察に非常に有用な検査です。気軽に受診、紹介をしていただければと思います。

リウマチにかかって何年も経っていても、遅くはありません。痛みがあることが当たり前と思って生活している患者さんも少なくありませんが、リウマチ治療は今も進歩し続けています。生物学的製剤を中心とした、リウマチに有効性が高い薬剤の進歩が目覚ましく、治療の選択肢が増えました。

病気をよく理解してもらい、一緒に治療目標を決め、年齢や生活スタイルなどを考慮して治療計画を立てます。リウマチといってもどんどん進行して変形が進む患者さんと、免疫調節薬のみで数十年たってもほとんど進行しない患者さんなど様々です。





また、農作業で動かざるを得ない人、お孫さんの面倒を見ながら家事全般を引き受けている人など、患者さんは様々なことを背負っていますから、寛解を目指したステップはそれぞれに異なり、多様です。中には大変高価な薬もあり、経済的負担の大きいものもありますが、必要な患者さんには時間をかけて説明し、納得いただいた上で使用しています。高齢者も増えており、副作用やリスク管理のマネジメントも患者さんに応じた対応が必要です。週1回県立新庄病院で外来診療をさせていただいていますが、お蔭様で周囲の先生方との顔の見える連携ができ、大学病院勤務時代と変わらず、安全かつ踏み込んだ治療を実践できています。

## ☆かかりつけ医としての取り組み

リウマチクリニックとしての認識が広がるにつれて、「風邪でもかかっているのですか?」、「血圧の治療もしてもらえますか?」等、患者さんからきかれることがあります。そもそも私は内科医であり、またリウマチ膠原病は全身性の疾患でもあり、全身を診る分野です。風邪から生活習慣病、甲状腺疾患、認知症、皮膚疾患などにも対応しています。内視鏡検査は行っていませんが、症状に応じて、専門の先生へ紹介させていただいております。また近隣の学校医、介護施設の協力医療機関として市民の健康維持に携っています。肺炎球菌ワクチンは予約なしで接種可能です。

また、東京都内の病院に勤務している形成外科専門医が週1回当院で診療を行っています。患部の変形を伴うリウマチ患者さんは、形成外科との連携治療も必要になる場合があります。痛みを少しでも軽減できるよう連携しています。また、ほくろ・いぼなどの皮膚のできもの、手や顔のケガ、腱鞘炎、陥入爪、まぶたの異常など皮膚全般の異常についての診療、日帰り手術も行っています。形成外科診療は電話による完全予約制ですが、気軽にお問い合わせください。



☆地域で専門性を生かした治療を提供するクリニックとして専門性を生かしつつ、地域医療を担うクリニックとして下記のことを大切にしています。

- ・眼、手、頭を使い患者さんをよく診察すること
  - ・どんなに治療が進歩しても第一に患者さんに寄り添う治療を提供すること
  - ・顔の見える医療連携を大切にすること
  - ・グローバルスタンダードを忘れないこと
  - ・薬はなるべく必要最低限とすること
  - ・副作用・合併症を極力減らす努力をすること
- (患者さんと一緒に)

病状が改善して患者さんの笑顔が増えていくことは何よりのやりがいです。患者さんが診察室から出る際、「先生、新庄に帰ってきてくれて本当にありがとう。」こんな言葉を掛けてくださり、何度か目頭が熱くなる思いをしています。勉強熱心なスタッフがいつも笑顔で患者さんをケアしてくれています。地域のニーズをくんで、かかりつけ医としてプライマリ・ケア、総合診療の機能も発揮しながら、専門領域の診療とのバランスを大切にしていきたいと思っています。





## 5. シリーズ★栄養レシピ 病院食の紹介 —栄養管理室—

### “乳和食ってご存じですか？”

今年度の“シリーズ栄養レシピ”では、当院に入院されている患者さんに提供しているお食事のなかから、工夫の一品や行事食、また、新しい献立を紹介していきます。

今回は、“乳和食”です。

もともと牛乳は和食には馴染みの薄い食材ですが、塩分を感じやすくなる特徴があり、病院食にも生かしています。ミルク茶碗蒸し、カボチャのミルクそぼろ煮など、塩分を控えてもコクがでるので美味しく仕上がります。人気のメニューです。



ミルク茶碗蒸し

#### 【材料 2 人前】

卵60g (L1 個) だし汁80cc 牛乳80cc  
酒小さじ 1/2 杯 みりん小さじ 1/2 杯  
醤油小さじ 1/5 杯 食塩ひとつまみ  
みつば適宜

#### 【栄養量 (1 人前)】

エネルギー	80kcal
蛋白質	5.3g
脂質	4.7g
炭水化物	3.2g
食塩相当量	0.8g



#### 【作り方】

- ① 卵をときほぐす。(こし器で漉すとなめらかになる)
- ② だし汁、牛乳、調味料を合わせ、器に入れみつばを飾る。
- ③ 蒸気の上上がった蒸し器で蒸す。はじめの1分は強火で、その後は中火～弱火で10～12分蒸す。

※なめらかに仕上げるポイントは、強すぎない火加減です。

※牛乳が入ることで塩分を感じやすくなり、普通の茶碗蒸し1人前に比べ塩分0.4gを控えることができます。

平成28年 山形県 県民健康・栄養調査の結果によると、山形県民の1日の塩分摂取量は、成人男性10.8g、成人女性9.4gとなっています。これは全国に比べて多い値です。(全国平均 男性10.4g 女性8.9g) 高血圧症、脳血管疾患、心疾患、腎疾患の治療の目標は6g未満です。

乳和食も利用して適塩をすすめていきましょう。

「日本人の食事摂取基準 (2015年版)」食塩摂取量の目標値  
成人男性：8.0g 未満 成人女性：7.0g 未満



かぼちゃのミルクそぼろ煮  
塩分0.6g